

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大成町トライラボ (児童発達支援事業所)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの事を理解し、丁寧に関わっている。優しいスタッフが多いという意見有。	小集団での療育を行っているが、個々の月齢・発達特性に沿ってプログラムを考え、支援を行っている。	情報共有を丁寧にいき、お子様に関わる全員が一人一人を把握していく。引き続き、職員自身がお互いに声を掛け合い、業務過多にならないようにしていくことで安定した気持ちで支援を提供していく。
2	・プログラムは固定化されておらず、興味の幅、遊びの幅が広がることができるが増えてきたという共感的な意見が多い。	経験豊富な職員が多いため引き出しが多い。職員が自己研鑽しながら支援を工夫している。話し合いの中で、その日の利用児童の状況や興味にあった支援を考え工夫している。	
3	・個別支援計画に沿って支援が行われている。	個別支援計画について職員間でしっかりと共有している。その都度、方向性など確認し合っている。	引き続き、個別支援計画立案の際に会議を行い、子どもの特性を理解していきながら支援に反映させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会や家族で参加できるイベントがない。また、面談をしていないという意見有。	送迎しているという事もあり、特に保育園・幼稚園利用児は保護者と対面でお話する機会が少ない。	個別支援計画更新のタイミングで半年に一度、定期的に面談を行っているが、その他にも必要に応じて気軽に面談を行えることを周知していく。 今後希望に応じて、職員、保護者同士の交流の場が広がるように保護者会など計画を立てていく。
2	・避難訓練に関する周知が徹底されていない。	避難訓練の日程を予定として伝えてはいない。	放課後等デイサービスご利用の児童を中心に避難訓練を行っているので、児発の時間も積極的に避難訓練を年2回以上取り入れて、全員が参加できる機会を作っていく。 避難訓練の日程を前もって伝えていく。
3	・生活空間に問題は無いが、階段が危ないという意見多数あり。	事業所に入る前の階段が急である。 建物にエレベーターが設置されていない。	建物の構造上、階段に関しては現状のままとなってしまうので下記のような対応を徹底している。 ①階段の登り下りが難しいお子さんは抱っこで移動。 ②歩いての移動が可能なお子さんは、職員が1歩下を歩き、常に支えられる体制をとる。 ③必ず1列で歩く。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	大成町トライラボ (児童発達支援事業所)		公表日	2025年 3月 1日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2		年齢、発達特性がそれぞれ違うため、日々人員が必要となる。通所曜日をニーズや特性に応じて対応していくことで準備時間を増やしていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	限られたスペースの中で始まりの会を行う場所、机上課題に取り組み場所、運動課題を行う場所、食事をする場所などわかりやすく分けて生活ができています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	マットとバスタオルを広げるなどしてカムダウンのスペースを作っている。また、必要に応じて面談室が利用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1		療育に携わっている全員が参加できる時間を捻出する工夫が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		運営・現場職員にて意見交換ができており、業務改善に努めている。定期的に職員面談を実施。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		虐待研修、児発管の基礎研修を受けている。	来年度より、年間での研修プログラムを立て実施予定。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	4	現在、支援プログラムを作成中。3月中旬に公表予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		児発管と共に支援内容を相談し合っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		支援プログラムは児発管が立てた月案をもとに各担当保育士が内容を広げ、相談し合いながら行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		各保育士の経験や自己研鑽の学びをもとにお子さまの状況や興味に応じたプログラムを作っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		日ごろから職員間で支援について話し合うことはできている。また、支援開始前も限られた時間内で情報共有できるように努めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		昼食の休憩時間や送迎後にその日の気づきを児発管、保育士中心に共有できている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		送迎時やモニタリングなどの際に各関係機関との連携を行っている。	送迎時の共有は、時間的にも難しいことも多いので、保護者の希望やお子さまの状況に応じて学校や園への訪問を行い関係機関連携に努める機会を増やしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1	地域の児童発達センターとの連携は、利用児を通して行っている。また、元特別支援学校の校長にアドバイザーとしてお願いしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	公園に行った際には、地域の方や近隣の保育園、幼稚園等の方に積極的に声をかけている。	個々の利用時間の兼ね合いもあり、公園に行く機会を作ることが難しい日も多い。送迎時間、公園で過ごす時間を工夫している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	保護者同士の交流の機会を今後計画していきたい。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		連絡帳や口頭で伝わりにくい細かい雰囲気や様子をSNSを通して伝わるように、Instagram、ブログを取り入れている。	支援の合間に写真を撮ることが難しい時もあるが声を掛け合っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		外部のアドバイザーの方に虐待防止、身体拘束防止について研修委託をお願いしている。また、ワークショップも行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大成町トライラボ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・安心できる環境の中で共感的に支援を行っていると感じて下さる方が多い。	職員同士が楽しい雰囲気を作り出すことで、お子様の安心感につながっている。	引き続き、情報共有を丁寧に行い、お子様に関わる全員が一人一人を把握していく。職員自身もお互いに声を掛け合い、業務過多にならないようにしていくことで安定した気持ちで支援を提供していく。
2	・保護者のニーズ、課題を踏まえつつ作成された個別支援計画に沿って活動プログラムが固定化されないように工夫している。	経験豊富な職員が多いため、引き出しが多い。 職員が自己研鑽しながら支援を工夫している。 話し合いの中でその日の利用児童の状況や興味にあった支援を考え工夫している。	一人のアイデアでは限界があるため、引き続き職員で様々な提案を持ち寄り、相談し合いながら考え、支援を工夫していく。
3	・ガイドラインに沿った個別支援計画を具体的に提示し、特性に応じた活動プログラムを通し支援を行っている。	半年に一度アセスメント面談を行い、保護者のニーズと本児の現状を踏まえガイドラインに沿った個別支援計画をたてている。そのうえで、集団で行いつつも個々のニーズに応じた活動プログラムを立案し、支援を行っている。	個々のニーズに合わせた支援プログラムを立てつつも、利用児全員が楽しめるように工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会など、保護者同士の交流の機会、保護者支援、兄弟支援について機会を設けられていない事。 ・連携、助言など、好意的に受け止めてくれる方ともしっかり連携していきたいという意見もあった。	送迎時には時間が限られている為、ゆっくりとお話ができない。 保護者同士の交流の場を設けていない。	今後、希望に応じて、職員、保護者同士の交流の場が広がるように保護者会など計画を立てていく。 個別支援計画更新のタイミングで半年に一度定期的に行っている面談のほか、必要に応じて面談の日程調整が可能であることを周知していく。
2	・避難訓練や非常災害時の対応など周知が不十分。	避難訓練の日程を前もって伝えていない。	毎月、配布している月案に避難訓練の日程を盛り込んでお知らせしていく。 インスタグラム、ブログなどで、避難訓練について発信していく。
3	・連絡帳使用に関しての保護者負担、働いている保護者への電話連絡などの頻度を踏まえて、効率よくICT化をすすめることはできないか？	ご意見をありがとうございます。そのような意見が複数ございました。今後負担軽減のため、現在使用しているシステムに今後の展望を問い合わせているとことです。もう少しお待ちください。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		大成町トライラボ (放課後等デイサービス)		公表日		令和7年 3月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	・支援内容を考え、工夫し努力はしている。 ・現在の環境で少しでも個別学習が集中できるように取り組んでいる。また、集団活動の配置等も考え実施している。	・学校休業日に児童、放デイのスペース確保に工夫が必要	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2		・定員や配置は問題ないですが、ご利用者様よりお声を頂く事があり、皆様が安心できる環境を整えて参ります	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		ホワイトボード、足形マークなどを活用し、視覚的補助で分かりやすい環境を作っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	4	希望に応じて、職員が目が行き届く範囲でパーソナルスペースを確保できるよう配慮している。	・限られたスペースの中で対応できる方法を考え抜いていくことが必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		月案として支援プログラムを配布している。 現在、全体の支援プログラムを作成中。 3月中旬に公表予定。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		時間を有効に使えるように工夫しながら、情報共有などを丁寧に行っている。	業務の空き時間を使いできる限り職員間で情報共有の場を設けられるように努めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたフォーマルなアセスメントを利用していないが、発達段階を踏まえた上で保護者やご利用児のニーズ、状況を踏まえアセスメント面談を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		保育士が中心となり様々なプログラムを立案、準備を行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		保育士が中心となり様々なプログラムを立案、準備を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別学習の時間を設け、個々に応じた課題を提案している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	全員参加での振り返りは、時間的に難しいがその都度情報共有を行っている。	支援終了後は、今後の支援準備等で振り返りの時間が少ない場面もあるので、話し合いとしての時間の確保を工夫する必要があると考えている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者の希望に応じて学校などの関係機関との連携を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	学校担任と必要に応じて就学前の情報を共有して頂いている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		・現在対象児なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1	支援学校の元校長にアドバイザーとして月に1回程度支援の様子を見て頂き助言を頂いている。また、研修もしていただいた。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	休職中に、地域の公園に出かける機会があった。公園で他事業所のお友達と交流機会あり。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6	保護者同士の交流の機会を今後計画していきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		連絡帳や口頭で伝わりにくい細かい雰囲気や様子をSNSを通して伝わるようにInstagram、ブログを取り入れている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		外部のアドバイザーの方に虐待防止、身体拘束防止について研修委託をお願いしている。また、ワークショップも行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3				